教育環境改善プロジェクト

確かな学力のために

▶▶ 18

特別研究指定校編 ④

香川県坂出市立府中小

「分かる授業」ICT活用し成果

機器使う環境整備、研修…ICT授業好き児童80%に

香川県坂出市立府中小学校（宮下良造校長、児童274人＝普通学級11、特別支援クラス2）は、昨年12月、授業でのICT活用についての公開研究会を行った。同校では、平成19年度まで、コンピュータ教室はあるものの全校的にICT機器の整備が進んでいなかった。

このため、教員たちは「ICT活用の良さは理解できても、無いものは使えない」というジレンマや、「どのような機器を使えば、子どもたちの学習意欲を高めることができるのか分からない」との悩みを抱えていた。

そこで同校は「だれでも、いつでも、どこでも、ICT機器を使うことのできる教育環境づくり」を行い、すべての普通教室におけるICT機器の効果的な活用によって、「個に応じた学習支援活動を通して、意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る」ことを目的に20年度、パナソニック教育財団に助成を申請した。

ICTを活用して授業を「分かる授業」へと改善することが狙いである。

助成金でプロジェクター、書画カメラをそれぞれ3台ずつ購入することができた。これが呼び水となり、PTAの協力もあって現在では、プロジェクター9台、書画カメラ8台を備えるまでになった。

研究主任の藤川直人教諭は「全クラスとまではいかないまでも、各学年で普通の教室の、普通の授業で、普通にICT機器が使えるようになった」と、ハード面での整備の進展に笑顔を見せる。

さらに、どの教員でも簡便に使えるようにプロジェクターと書画カメラ、必要に応じてビデオデッキなど一式を常に接続した状態のままワゴンに乗せ移動しやすくした。

ICT活用研修にも力を注ぐ。夏休みには県教育センターの指導主事を講師に招いた。また、教職員全員が授業実践から効果的な活用場面を選んで教員間で意見交換し、マニュアルにまとめた。

昨年7月、全学年でアンケートを実施したところ、「先生がICTを使った授業は好きだ」という回答がほぼ80%を占め、「ICTを使うと学習がよく分かる」と答えた子どもたちは72%に達した。

理科、国語、社会、算数の4教科で「どんなときにICT機器を活用すると学習がよく分かるか」との質問では、例えば算数の場合、教科書やノートを大きく映して説明、計算の仕方と答え合わせ、グラフや図形の勉強などの回答があり、各教科の授業でICTが効果を発揮した学習シーンが具体的に把握できた。

同財団のアドバイザーとして同校の公開研に訪れた京都教育大学の浅井和行教授は4年生の算数の公開授業を参観して次のように語る。

「ICT機器を使った拡大投影により、子どもたちの理解が深まっていると感じた」

公開研終了後には、浅井教授と同校教員らとで、同財団の特別研究指定校としての今後の実践研究への取り組みについて会議が行われた。

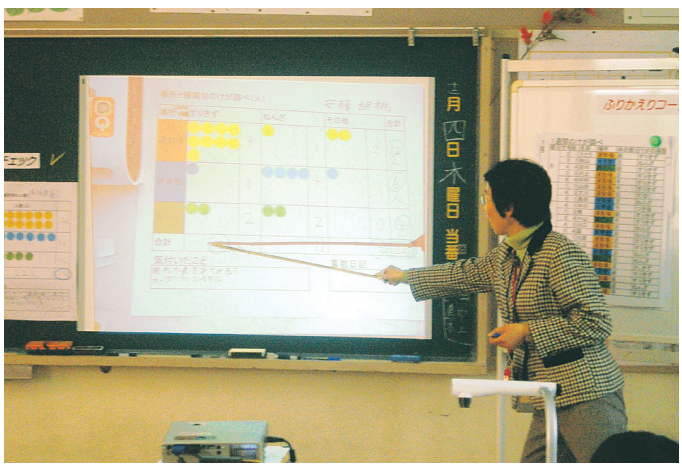
浅井教授は、動画やネットワークを上手に使って、子どもたち自身が学びたくなるような授業研究について示唆した。

また、学力向上を意識したICT活用による授業づくりについて、校長、教員それぞれの立場から多くの質問も出た。ICT活用に苦手意識を持っているという教員に浅井教授は「他校視察や研修会への参加などから、いろいろやってみることは大事。ただ、授業によっては無理して使わずに、雰囲気づくりというような使い方をして子どもたちのやる気につなげることも必要」とアドバイスした。

会議の最後に、府中小らしい実践研究についてアドバイスを求められ「府中小は、教員が児童一人一人を大事にした教育活動を行っている。子どもの実態に合わせながらICT活用に取り組んでみては」とした上で「そのことを意識して授業研究を重ね、記録・蓄積していくことで府中小らしい研究成果につながる」と同教授は会議をまとめた。

公開研や会議での討議の様子から財団への助成申請をきっかけに、教員間で学力向上を目的にICT活用による分かる授業づくりという共通理解を持ち、子どもたちのために授業改善を図ろうとする同校の熱意や意欲が伝わってきた。

同校の2回目の公開授業が、2月5日に行われる。3年国語科では、デジカメの動画を活用して学び合う授業展開となる予定だ。



「分かる授業」への改善に向け、ICT機器を使った拡大投影による公開授業の様子

次回は2月23日付に掲載

本連載、過去の記事は、日本教育新聞コミュニケーションサイト「先生解決ネット」（http://www.kyoiku-press.com）もしくは、パナソニック教育財団HP（http://www.pef.or.jp）から閲覧できる。

◇この連載は、㈶パナソニック教育財団（URL＝http://www.pef.or.jp）と助成先の協力により実施しています。

日本教育新聞

（2008年6月16日付

まずICT機器活用法を研究

香川県坂出市立府中小学校　宮下良造校長、児童274人

マニュアル作って習熟度高める

坂出市内の学校はコンピュータ室の整備こそ進んでいるものの、普通教室や校内LANなどの整備は遅れているという。府中小も例外ではない。

授業実践リーダーの藤川直人教諭＝写真＝は「普通教室には、先生の個人的努力で備え付けたパソコンが1台ある程度。インターネットを活用できる状況にほど遠い。その他のICT機器も十分には備わっていません」と現状への悩みを打ち明ける。

ICTを使える教員も少数という。「機器を購入しようにも予算がない。実物投影機も古いものが1台だけ。プロジェクターも使えない先生が多くて、授業での設置も片付けもままならない」

同校としては現状を打破し、子どもたちの意欲の向上と基礎・基本となる学力を定着させるためにICTの効果的な活用法を把握したいところ。

実は、同校は19年度に松下教育研究財団の助成を受け1教室をメディア教室にした経緯がある。その結果、ICT活用が子どもたちを積極的に授業に参加させる上で効果のあることが確認できた。この経験はぜひ生かしたい。今回の特別研究指定校助成の申請に当たって「すべての普通教室におけるさまざまなICT機器の効果的活用方法の研究」を目的に掲げた背景にはそうした事情があった。

「まずはICT機器を備えることが一番」。態勢の整備を第1歩として、研修、活用のアイデア集やマニュアルの作成などを進めて習熟度を高める。全教員による研究授業も2年間で一人1回以上は行えるようにステップアップし、最終的に子どもたちの意識調査を実施して成果を評価したい、と藤川教諭らは活動計画を描いている。

次回は7月7日付掲載

◇この連載は、㈶松下教育研究財団（URL＝http://www.mef.or.jp/）および助成先の協力により実施しています。